


「みんなでつくろう、これからの医療」プロジェクト*

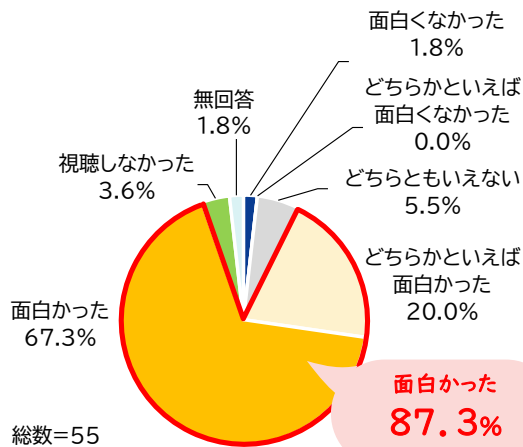
第1回ウェブセミナー ～新たな患者会・活動のカタチ～

病気を持つ人をはじめ、患者支援団体、ヘルスケア関連企業、医療従事者など、多くの方にご参加頂きました。

開催日時 2020年7月19日(日)13:00~15:10	活動報告【登壇者】 谷島 雄一郎さん 大阪ガス株式会社 近畿圏部 ソーシャルデザイン室 グカラコソクリエイト 発起人・世話人 カラクリLab. 代表 宿野部 武志 ピーベック/じんラボ 池崎 悠 ピーベック/難病 NET.RDing 福岡
方法 YouTube ライブ配信 (参加無料)	
参加者 申込者者 124名 最高視聴者数 89名 (視聴率:71.8%) ※平均視聴者数 約82名	
アンケート回答数:55名 (回答率:61.8%)	
パネルディスカッション 「病気をもつ人や患者会の価値」を活かした活動や、これからの病気をもつ人の在り方とは?	

参加者アンケートより —ご協力ありがとうございました!—

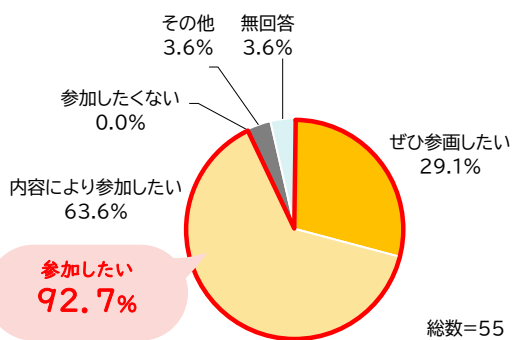
●セミナーはいかがでしたか?



●感想(抜粋)

- ・私達のいないところで、私達のこと決めないで欲しいというメッセージが印象に残りました。
- ・三者三様の患者の立場から社会に向けての発信の仕方を知ることが出来て、とても有意義な時間でした。
- ・形は違えど、それぞれの目指す役割に邁進されてる姿を見しとても感銘を受けましたし、自分の置かれてる立場の上で私も活動していきたい。
- ・「患者会」自体が様々な形態になっていること、それこそがダイバーシティ&インクルージョンで良いとパネルディスカッションを通して感じました!
- ・谷島さんが、最後の感想でおっしゃった、「層が違う人や組織等との繋がり、マトリックスな関係づくり」の重要性を感じました。
- ・患者会が製薬業界を巻き込んで、作ってほしい薬を作ろうとする取り組み。講師の方のしなやかな折れない心に頭が下がりました。
- ・患者団体とヘルスケア企業が直接連携やコンタクトを図り、企業がビジネスとしてできること、患者団体が協力できることを模索することの大切さを学べた。
- ・薬の開発は、医者のため?患者のため?
- ・ヘルスケア企業の立場から考える、患者団体、医療、政治へのコラボレーションや方向性を協議できたらいい。

●プロジェクトへの参加



*みんなでつくろう、これからの医療プロジェクト(PPHプロジェクト):治療のために生活を諦めるのではなく、自分らしい生活のための治療ができるように。日本のこれからの医療を素敵なものにするために、病気や資格の有無に関わらず、すべての人たちが語り合い、病気をもつ人視点の治療・薬、新しいサービスをみんなで創るプロジェクトです。